

令和4年度 秋季卒業式

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ご参列の保護者の皆様、ご家族の皆様、本日は誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

高校生活を終え、これから新たな一歩を踏み出すことになるみなさんに、私から一つお話をしたいと思います。

みなさんの在学中は、コロナウイルス感染症により、何かと不自由を感じることも多かった高校生活ではなかったかと思います。そのような中、昨年は東京オリンピック、今年2月には北京オリンピック、7月には世界陸上競技選手権大会など、様々な世界的なスポーツ大会が開催されました。

私は、そのような大会で、メダルを獲得したり、入賞した多くの選手が、インタビューなどで、試合が延期になったり、自分の記録が思うように伸びなかったりする中、「何度、もうやめよう」、「あきらめよう」と思いながらも、あきらめずに競技を続けてきて本当に良かったと言っていたのが印象に残っています。卒業生の皆さんも、同じように学校を続けてきてよかったと感じているのではないかと思います。

今は現役を引退し、北京オリンピックや世界陸上競技選手権大会などの番組で、スポーツキャスターを務めた元マラソン選手の高橋尚子さんは、女子マラソンの元世界記録保持者で、シドニーオリンピックの金メダリストでもあります。現役のころは練習の虫といわれるぐらい練習量が多かった選手といわれています。

そのような圧倒的な練習量を毎日こなしていた彼女でも、ケガなどのアクシデントに見舞われたり、どんなに練習しても成果が出ずに苦しかったりした時があったそうです。そんな時に、恩師の先生から次のようなことばをかけられ、そのおかげであきらめずにがんばることができた、とっていました。

その言葉とは、

「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ、やがて大きな花が咲く」
です。

自分の目標を達成するためには、まずは行動を起こさなければ、何事もはじまりません。しかし、行動したからといって必ずしも思ったような成果が出るとも限りません。大切なのは、自分の目標に向かってあきらめずに努力を続けることです。

これから新しい世界へ踏み出し、自分の夢の実現を目指していく卒業生の皆さんも、うまくいかないことや、こんなに頑張っているのに成果が出ない、と悔しい思いをすることがあるかもしれません。そのようなときは、今は、大きな花が咲く前の準備期間なのだと、途中であきらめたり、投げ出したりせずに努力を続けていってもらいたいと思います。

苦しいときに頑張ったことは、必ず後から生きてきます。

結びに、これまで本校の教育活動に多大なご理解とご協力を賜りました保護者の皆様、ご家族の皆様に感謝を申し上げますとともに、卒業生の皆さんの努力が幸多き未来へとつながることを祈念し、式辞といたします。

令和4年9月28日

広島市立広島みらい創生高等学校長 井林 秀樹